声　　明　　書

われわれの家族が搭乗していた大韓航空HL－7442機は本年9月1日午前3時26分すぎ，サハリン南西部のモネロン島附近で，ソ連のミサイルにより撃墜された。たとえ同機による領空侵犯の事実があったにせよ，ソ連が非武装の民間機を十分に確認しようともせず撃墜してしまったということは，明白な国際法上の不法行為であり，極めて冷酷，非人道的な蛮行である。

一方，このようなソ連の蛮行を招来せしめた第一義的責任は大韓航空にある。全く信じ難いことではあるが，大韓航空機は尊い人命を預かる民間航空機としての安全運航に関する責任と義務を完全に放棄し，ソ連の重要軍事施設の上空を奥深く故意に侵犯した疑いが極めて強い。仮りにＩＮＳのインプットに誤りがあったとしても，同機がレーダーも見ず地上との正常な交信も一切行なわず，数時間にわたり途中の通過点4ケ所を最大で500km以上もことごとく逸脱したまゝ，完全な盲目飛行を続けることはあり得ない。世界の民間航空機史上類例のないこの大韓航空の徹底的な人命軽視と殺人的暴挙は，人間性に対する反逆であって，われわれはこれを断じて安易には許さず，きびしく糾弾と告発を続けていくであろう。

大韓航空HL－7442機の乗客を死に至らしめた最大の責任者は大韓航空であるが，この事件は，米ソ両陣営の厳しい軍事的対立の狭間の中で起った。われわれの家族は，この米ソ間の冷戦の犠牲者である。われわれは，大韓航空機がソ連領空を侵犯したことに関して，アメリカ側の軍事情報組織は，少くともその全容を十分に知りうる立場にあったのではないか，という重大な疑念を拭いさることができない。

真実は一つであって大韓航空の欺瞞はすでに破綻している。この上は会社の存廃を賭けて，大韓航空はいさぎよくソ連領空侵犯の真相を世界に公表し，自からが犯した人道上の大罪を犠牲者の霊と遺族の前に幾重にも謝罪すべきである。

１９８３年１２月１１日

大韓航空機事故遺族会
会長　川　名　優　収